

(2014年現在)

社 名 : 株式会社 NIPPO

英 文 社 名 : NIPPO CORPORATION

設 立 : 1934年(昭和9年)2月

本社所在地 : 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11  
TEL 03-3563-6751(代表)

代 表 者 : 代表取締役社長 岩田 裕美

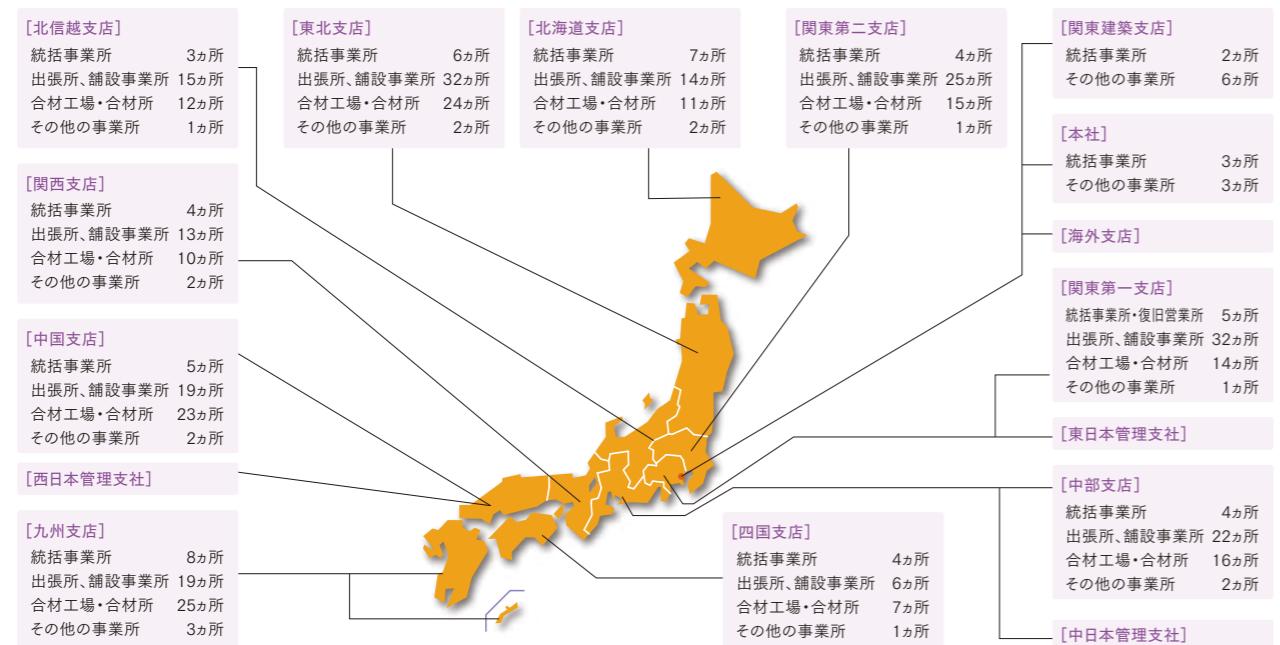
資 本 金 : 15,324百万円

事 業 内 容 : 建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、開発事業およびその他の事業

従 業 員 数 : 1,783名(男性1,694名、女性89名)※2014年3月31日現在

ホームページ : <http://www.nippo-c.co.jp/>

## ▼ 事業所一覧 (2014年4月1日現在)



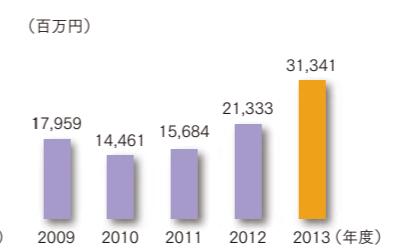
## ▼ CSR活動への取り組み

1934	日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本鋪道株式会社」を設立
1993	企業行動倫理委員会設置
1994	環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置 企業理念・行動指針制定
1995	シンボルマーク改訂
1998	環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
2003	日本鋪道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更 法令遵守(コンプライアンス)体制構築
2004	環境報告書創刊
2005	CSR体制構築
2006	企業理念・行動指針改訂
2007	CSRレポート創刊
2009	「株式会社NIPPO」に商号変更
2012	プラントエンジニアリング部門を「JXエンジニアリング株式会社」に会社分割

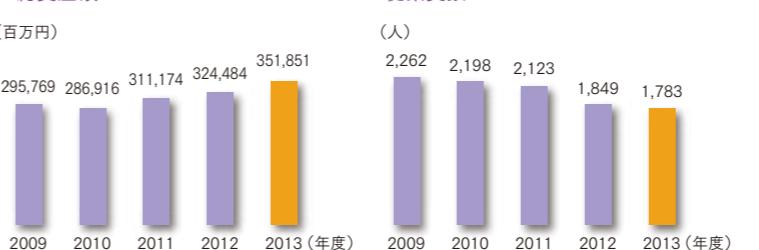
## ▼ 売上高



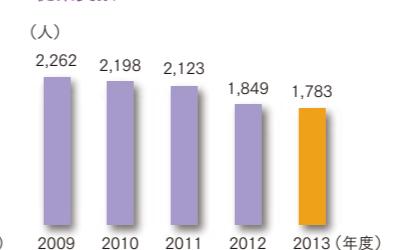
## ▼ 経常利益



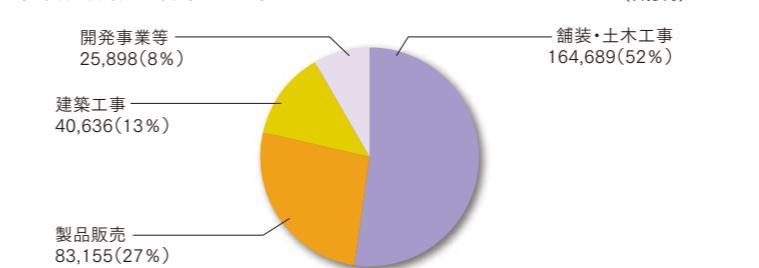
## ▼ 総資産額



## ▼ 従業員数



## ▼ 事業分野別売上高 (2013年度)



## CONTENTS

会社概要	1
トップメッセージ	3
NIPPOの事業	5
特集 日本の道づくりとともに歩んだ80年	7
マネジメント報告	
コーポレート・ガバナンス	9
CSRマネジメント	10
コンプライアンスと品質保証体制	11
環境・安全報告	
安全管理	12
環境マネジメントシステム	13
舗装事業における環境保全活動	15
舗装事業での環境技術	17
戦略事業における環境・安全配慮	19
社会性報告	
お客様の信頼を得るために	21
従業員とのかかわり	23
社会とのコミュニケーション	25
読者の声を受けて	27
第三者意見	30

## | 編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済、環境、社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社とかかる多くの方々とのコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思います。

## | 対象範囲と対象期間

対象範囲 : 株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・復旧営業所55カ所、現業事業所380カ所(海外を除く)。

対象期間 : 2013年度  
(2013年4月1日から2014年3月31日)  
一部には、時期を明示した上で2013年度以前の情報と2014年9月までの最新情報を掲載しています。

# 確かなものづくりを通して 社会からの信頼に応えCSRを徹底します。

株式会社 NIPPO  
代表取締役社長 岩田裕美



NIPPOは、1934年(昭和9年)2月2日、「日本鋪道株式会社」として設立以来、2014年で80周年を迎えました。この80年間、企業理念『確かなものづくりを通して、豊かな社会の実現に貢献する』ことを「企業の社会的責任(CSR)」の根幹とし、あくなき挑戦と誠実な企業活動をもって、皆様の信頼に応えてきました。80周年という節目を、設立以来の原点に立ち返り、NIPPOのあるべき姿を見つめ直す機会にしたいと考えています。

## 「確かなものづくり」の実践

東日本大震災以降、災害に強い道づくり・まちづくりの推進が要請されるようになりました。

一方で、中央自動車道のトンネル事故を契機に、防災や安全・安心面から、経年劣化が進む既存インフラの再構築が求められています。

安全・安心な社会生活基盤の再構築は、建設産業の使命と考えています。NIPPOは、道路を中心に補修・補強手法の調査・検討を重ねながら、防災・減災のための技術開発や現場力の向上に取り組んでいます。そして、品質、法令、安全、環

境など、あらゆる社会的要求に適正に応える「確かなものづくり」を通して、将来を担う人々の生命や暮らしを守り、地域の安全・安心を将来世代に受け渡す責任を果たしていきます。

### 「安全」の徹底

「人命尊重」は、NIPPOが掲げる安全衛生管理方針の基本理念です。繰り返し型の労働災害事故の撲滅に向け、安全作業の徹底と安全最優先の企業風土の醸成に努めていますが、著しい成果をあげるには至っていません。

安全は一朝一夕に成るものではありません。「安全作業4つの誓い」を強い意志と行動をもって実践する、といった小さな努力を積み上げていくことでしか成し得ません。改めて、「死亡災害ゼロ」を強く誓い、「決められたことを現場で実践することを徹底してまいります。

- ①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
- ②土砂崩壊「土止めの確認」
- ③転落・墜落「安全帯の確認」
- ④非定常時作業「装置停止の確認」

### 健全な地球環境の確保

国際社会において地球環境への取り組みが重みを増しています。NIPPOは、1950年代から「アスファルト舗装のリサイクル技術」の研究開発に取り組み、その後もスラグ等の他産業副産物を舗装材料に活用する技術など、資源循環型社会の構築に向けた技術開発を推進しています。

低炭素社会の実現に向けた取り組みとしては、都市のヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」、アスファルト合材製造時のCO<sub>2</sub>排出量を削減する「中温化技術」の普及展開などが挙げられます。これからも資源循環・低炭素・自然共生社会の実現に向けて、幅広い視点から技術貢献を果たしていきます。

### 社会との共生

全国に展開する事業所ネットワークを活用して、自然災害の復旧活動をはじめ、地域に密着した清掃活動や交通安全活動を続けてきました。さらには、JXグループの「童話の花束」への協力、小学校のグラウンド整地、「世界の子どもにワク

チンを日本委員会」への寄付など、将来世代の育成支援にも注力しています。

こうした社会貢献活動とあわせて、建設産業の担い手の確保・育成という構造的な問題に対しても、施工の合理化や就労環境の改善をはかると同時に、建設産業の役割や「ものづくり」の魅力について積極的に情報発信し、社会とのコミュニケーションを深めています。その一環として、多くの方々に道路や舗装を身近に感じ、興味を高めていただけるように、NIPPOのマスコットキャラクター「ミッチャーくん」による「道づくり」のPR活動にも努めています。

2014年10月から、ワーキングウェアを一新します。新しいワーキングウェアを着用した従業員一人ひとりの自覚と責任をもった企業行動を通して、より一層の信頼感や安心感を皆さんに提供できるように努力を重ねています。これからもCSR活動を積極的に展開し、良き企業市民として、社会の期待や要請に誠実に応え、信頼の絆を深めてまいります。

皆様の一層のご理解とご支援、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

# NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会の様々な場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。



## 土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

## 開発(不動産)事業

環境と安全に配慮し、永く安心できる住環境の提供を柱とした不動産事業を展開しています。「環境重視」・「安全性の高い商品企画」・「資産価値の高い街づくり」をコンセプトとし、全国の主要都市において、マンション分譲事業「Le Cinq ガラサンク」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズおよび市街地再開発事業に取り組んでいます。

## 海外事業

中国やインド、東南アジア諸国を中心としたテストコースの建設、アフリカ諸国を中心とした、日本の政府開発援助(ODA)による道路整備事業への参画など、当社の高い技術を活かし、世界での活躍の場を広げ、各国のインフラ整備に貢献しています。

## 建築事業

1983年から本格的に建築事業に参入し、実績を積み重ねています。様々な要望と施工環境に対応し、技術の蓄積でお客様との信頼を築いてきました。環境に配慮して地域社会に合った夢のある快適空間を提供しています。

## 製品製造・販売事業



京都合材工場  
全天候高耐久常温合材  
レミファルトST

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。

## 舗装・土木事業



岩手県営運動公園ラグビー場



長崎諫早プールサイド(遮熱性舗装)

1934年の会社設立以来「道づくり」を中心空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO<sub>2</sub>排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。